

# CT 検査を受けられる方へ

## — 当院の被ばく線量低減の取り組み —



近年、放射線による被ばくが社会的に注目を浴びています。

H27年4月には日本放射線技師会の調査で、「CT検査における被ばく線量が同じ撮影部位であっても施設間で10倍以上の差があること」がマスコミで報告されました。当院でCT検査を受けられる患者さんの中にも、「この病院での被ばく線量はどうか?」と心配されている方もいらっしゃるかもしれません。

このため、CT検査を受けられる患者さんが納得し安心して検査を受けられるよう、当院のCT検査について報告させていただきます。

- H25年1月より稼働している当院のCT装置には、被ばく低減技術の一つである逐次近似再構成を搭載しており、これを用いることで画像のノイズを減らすことができ、少ない線量で従来と同じような画質を担保できるようになっています。
- さらに、撮影部位に応じて撮影条件を細かく設定し、画像診断に問題がないレベルまで撮影線量を下げて撮影しております。

<医療被ばく研究情報ネットワークの参考値（診断参考レベル）と  
当院の被ばく線量との比較（実効線量）  
(成人の体重50~60Kgを対象)

### <診断参考レベル>

	実効線量 (mSv)
頭部	3.0
胸部	8.0
腹部・骨盤	15.0

### <当院>

	実効線量 (mSv)
頭部	2.03
胸部	2.6
腹部・骨盤	8.6

#### ※診断参考レベル

医療被ばくを最適化する目的で推奨されている値  
画像診断において、この値を超えている場合には線量を下げることが検討されるべきであるとされる目安値のこと

今後も患者さんが安心して検査を受けられるよう  
被ばく線量の低減に努めてまいります。

